

島根原子力発電所温排水影響調査（抄録）

安達二郎・石田健次・勢村 均・山田 正・曾田一志

島根原子力発電所の運転にともなう温排水が周辺海域に及ぼす影響を調査した。詳細については島根原子力発電所温排水影響調査研究報告書（島水試資料N0.52）に報告されているので、ここでは水温観測結果の概要を述べる。

結果の概要

水温は温排水の影響が無いと思われる沖合域の5定点の水深別の平均値を基準水温として、これより1℃以上高い水温を温排水の影響があったと思われる定点、0.5～0.9℃高い水温を水温がやや高かった定点とした。

第1四半期（平成7年4月13日観測）：気象および海象は、天候が晴れ、波浪が1～2、うねりが0～2、風向が南西～西、風速が1～8 m/s、気温が10.9～12.4℃であった。発電出力は1号機が46万KW（放水量22m³/s）、2号機が82万KW（放水量60m³/s）であった。温排水の影響があったと思われる定点は定点5、6、10の0、1m層、定点7の0、2m層であった。また、水温がやや高かった定点は定点5、10の2m層、定点9の0m層、定点11の1m層、定点12の0～4m層であった。

第2四半期（平成7年7月25日観測）：気象および海象は、天候が快晴、波浪が0～1、うねりが1、風向が南西～西、風速が0～6 m/s、気温が22.9～27.1℃であった。発電出力は1号機が46万KW（放水量30m³/s）、2号機が82万KW（放水量60m³/s）であった。温排水の影響があったと思われる定点は定点4の1、2m層、定点6、8、10の0～2m層、定点7の0、1m層、定点9の2～5m層、定点11の2m層であった。また、水温が高かった定点は定点1の2m層、水温がやや高かった定点は定点1、2の0、1、3m層、定点4の0m層、定点5、7の2m層、定点6、8、10の3m層、定点9、11の0、1m層、定点12の2、3m層、定点13、19の1、2m層、定点18の0～4m層であった。

第3四半期（平成7年10月12日観測）：気象および海象は、天候が曇り～快晴、波浪が1～2、うねりが1、風向が北東、風速が2～9 m/s、気温が15.7～18.0℃であった。発電出力は1号機が46万KW（放水量30m³/s）、2号機が82万KW（放水量60m³/s）であった。温排水の影響があったと思われる定点は定点2、7、8の0～3m層、定点3の0、1m層、定点9の0～5m層、定点10の0～2m層であった。また、水温がやや高かった定点は定点1の2、3m層、定点2、8の4m層、定点3の2m層、定点6の1～5m層、定点7の4、5m層、定点9の7、8m層、定点10の3m層、定点11の0～2m層であった。

第4四半期（平成8年1月18日観測）：気象および海象は、天候が曇り～晴、波浪が1～2、うねりが1、風向が北、風速が3～9 m/s、気温が5.1～6.2℃であった。発電出力は1号機が46万KW（放水量22m³/s）、2号機が82万KW（放水量60m³/s）であった。温排水の影響があったと思われる定点は定点7、10の0～3m層、定点9、11の0m層、定点12の0、2、3m層であった。また、水温がやや高かった定点は定点7、10の4m層、定点9の2、3m層、定点11、12の1m層であった。